

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 (4期連続トップ当選)

<編集発行>

〒194-0011 町田市

成瀬が丘 1-14-12

サンホワイト E103-13

TEL (FAX) 042-795-7361

議会事務局 042-724-2171

yoshidaben@gmail.com



町田式新農法：水耕栽培メロン

町田式新農法：水耕栽培メロンとは、町田市にある大浩研熱株式会社が開発し、その農園でとれたメロンが、「まちだシルクメロン」と呼ばれているものです。

本来、この会社はエアノズルのメーカーで、その関連技術で放射状のゆらぎ水流を生み出す技術を開発し、メロンの水耕栽培システムを作り上げたものです。養分をその水流で供給することによって糖度や食味をアップしています。また、旧来のメロンに比して、1本の株から数十個のメロンが採れることも大きなメリットになっています。さらに、空中にメロンが実ることで、作業姿勢を大きく改善しています。まちだシルク農園や導入先の温室栽培では、植え付け時期が長期間で年に3-4回の栽培も可能とのことでした。私が調べたところ、全国10カ所ほど（自治体や一般企業などが導入）で試験栽培を進めており、一部に実際に販売されているところもあります。また、名称では、それぞれに固有の名前（天空メロン、スカイメロン）を付け、地域産の特徴にしています。全国に広がることを期待し、その普及に協力したいと思っています。（青森県つがる市訪問視察）



「労働協同組合（ワーカーズコープ）の説明講演を聞いて

2022年10月1日に法律施行した「労働者協同組合（ワーカーズコープ）」＝（略称：労協）は、一つに資金提供する人と経営をする人と労働する人が兼ねていることがあり、次いで、その設立条件が、NPO法人に比べて簡便になっていることが特徴です。



ワーカーズコープ本部を訪ねた際の写真

実際にこの「労協」がどのように機能するかと言えば、現在ボランティア活動として行われているものを、参加者の労働「収入」につながる面をピックアップして事業化する人々が出てくるでしょう。働く人たちと経営する人たちが一体であるために、経営方針の決定、改廃が容易であるのも特徴です。現実の労働者協同組合（ワーカーズコープ）の事業化は、保育所、学童保育、保育サービスや介護の分野で進められているようですし、現に、町田市内で受託事業として成立しています。今後は、小型の万事屋（コンビニエンス+取次業）の事業が身近だと思えます。人口減少地区にあっては、物販とそれ以外の取り扱い品目の多様化によって、店舗構成が考案されるものと思ひ、今後の成長を注目しています。

◎町田市で、水耕栽培メロンの世界一決定戦を開催しよう！

○支持政党なしの方々の代表＝吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

●吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしています

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、
春季の第51期生を募集開始

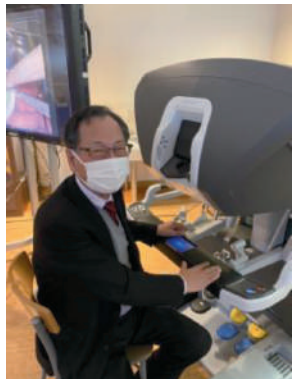
市民病院のダヴィンチを見学

市民病院が新規導入したロボット支援手術システム(一般にダヴィンチと呼ばれる)の見学会(健康福祉常任委員会)が1月18日に開催され、委員全員が操作体験参加しました。

このロボット支援手術システムは導入費用が約2億円になりますが、医師の負担を減らし、手術の時間も短縮できる特徴があります。まず、医師がこのダヴィンチに慣れるための訓練を行った後、効果が最も期待される前立腺全摘手術に適用されることになっていますが、順次、手術範囲を拡大することになっています。ロボット支援手術とは、サージョンコンソール前に座り、医師がその3次元モニターを見ながら、自分の手を操作具として操作すると、遠隔の場所に設置した複数のロボットアームが連動し、患者の体内を手術できる装置です。

見学会には、市民病院の金崎院長や医師の先生方が出席し、体験後の質問に回答いただきました。「手術中の患者の出血などを取り除くにはどうしてやるのか」と尋ねると、この手術の際には、担当の医師はサージョンコンソール前に座るが、補助の医師や看護師は患者の周りに配置し、チームとして手術にかかわっているとのことです。このダヴィンチの運用に期待しています。

左の写真は操作部分、中は機能部分、右はロボット部分と3つに分かれている。



2023年春季研修生募集中

ただ今は受験期ですが、他方で現役の大学生は、(大学によって)一定の幅がありますが、この時期以降は春季休暇に入ります。その間を利用したインターン生を募集します。



吉田つとむのインターンシップは、1998年にスタートして2022年中の参加者で104名を数えています。この春までの期間は第51期生と入れ受け入れますが、学年は1-3年と幅広く受け入れられます。家庭の許可があれば、大学の入学予定の高校生も受け入れられます。社会体験を通じた、本人の専攻、あるいは目標に合わせた、見学や研修を主体にした個別メニューのカリキュラムを提供することを特徴にしています。これまでの評価では、コミュニケーション能力の向上に適しているとされてきました。

104名の参加者内訳数は、女子66名、男子38名と圧倒的に女子が多くなっています。その理由は、「女子大学」学生の参加者数が30名にも及んでいるためです。また、文系・理系では文系が大半ですが、近年では理系が増加傾向にあります。その理系学生には、特にその専攻に合わせたメニューを設定してきました。参加に当たっては、何なりと相談に応じています。

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2022年10月末までに104名が参加しました。

◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。